

財団法人山形県埋蔵文化財センター

平成23年度 発掘調査速報会



平成23年12月11日(日)
村山市総合文化複合施設 飯葉プラザ

主催：財団法人山形県埋蔵文化財センター
共催：村山市教育委員会

次 第

開 会 12:45

挨 拶

平成23年度調査事業の概要説明

報 告 13:00～

1) 山形城三の丸跡

2) 清水遺跡

休憩・出土品見学

3) 八反遺跡・沼袋遺跡

4) 押出遺跡

閉 会 15:30



平成23年度 財団法人山形県埋蔵文化財センター発掘調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	時代	種別	調査面積 (4月当初)	起因事業
1 稲荷山館跡 第3次	米沢市万世町	中世	城館跡	450㎡	一般国道13号米沢拡幅工事
2 押出遺跡 第4次	高島町大字深沼	縄文	集落跡	525㎡	国営かんがい排水事業
3 山形城三の丸跡					
第8次	山形市春日町	中世・近世	城館跡	550㎡	国道112号霞城改良工事
第9次	山形市城北町	古代～近世	城館跡	500㎡	都市計画街路
4 沼袋遺跡	東根市大字長瀬	平安・中世	集落跡	6,500㎡	東北中央自動車道（東根～尾花沢）
5 八反遺跡	東根市大字長瀬	平安	集落跡	7,000㎡	東北中央自動車道（東根～尾花沢）
6 田向遺跡 第2次	村山市大字名取	縄文・平安	集落跡	200㎡	東北中央自動車道（東根～尾花沢）
7 清水遺跡					
1地区 第2次	村山市大字名取	縄文・平安	集落跡	4,450㎡	東北中央自動車道（東根～尾花沢）
2地区 第2次	村山市大字名取	縄文・平安	集落跡	2,600㎡	東北中央自動車道（東根～尾花沢）
3地区	村山市大字名取	縄文・平安	集落跡	5,300㎡	東北中央自動車道（東根～尾花沢）
4地区	村山市大字名取	縄文・平安	集落跡	1,200㎡	東北中央自動車道（東根～尾花沢）
8 北原2遺跡 第2次	村山市大字本飯田	縄文・平安	集落跡	1,050㎡	東北中央自動車道（東根～尾花沢）
9 森の原遺跡 第2次	村山市大字土生田	縄文・平安	集落跡	3,650㎡	東北中央自動車道（東根～尾花沢）
10 今宿大谷地遺跡	大石田町大字今宿	縄文	集落跡	450㎡	東北中央自動車道（東根～尾花沢）
11 出張坂城跡	鶴岡市下清水	中世	城館跡	600㎡	国道7号鶴岡バイパス建設工事
12 木の下館跡 第4次	鶴岡市水沢	中世	集落跡	750㎡	日本海東北自動車道（温海～鶴岡）

表紙写真：左上（清水遺跡2地区西郷小学校遺跡見学） 右上（山形城三の丸跡第8次調査風景）
左下（沼袋遺跡調査風景） 右下（清水遺跡3地区掘立柱建物跡）

稲荷山館跡は米沢市の市街地から東南方向に約6km離れた万世地区に位置する中世の城館跡です。伝承によれば13世紀の前半から置賜地方を領有していた長井氏の家臣であった熊坂利衛門の築城とされ、14世紀後半の伊達氏の置賜侵攻に最後まで抵抗しましたが、敗れて廃城になったとされています。

調査区は国道13号の南側に面し、現存する土塁と堀跡が主要な遺構として認知されていました。遺構検出を行った段階で、その他に井戸跡と考えられる土坑が1基と柱穴が21基確認されました。

柱穴については建物を組める配置には至りませんでした。ほとんどの柱穴が南側に集中しているので、調査区外の南側に何らかの施設があった可能性があります。井戸跡と考えられる土坑も、柱穴が多く存在する場所の近くから検出されています。

土塁の高さは遺構の検出面から約1.8mあり、幅は底面で約5mありました。構築方法は板枠の中に土を盛り1層ずつ突き固めていく版築とよばれる工法ではなく、堀を掘削しその横に掘った残土を積み上げて構築していったことが分かりました。堀跡は幅が約5m、深さは約



調査区東側の全景です。
柱穴が南側（写真右側）に点在しています。

80cmありました。

遺物のほとんどは堀跡から出土しています。陶器・磁器がほとんどですが、銅銭も出土しています。年代はいずれも近世のものであると考えられます。このことから、廃城の後も堀自体は継続的に何らかの形で使用されたと考えられます。堀跡以外の場所では置賜地方に多くみられる蹄鉄や内耳土鍋の破片が見つかり、伊達氏との関連性がうかがわれます。

（伊藤大介）



S F 1 土塁を東から撮影した様子です。
写真奥の堀を掘削した残土が利用されています。



S D 2 堀跡を西から見た様子です。

押出遺跡の発見は、1971年に沼尻堀の掘削後の排土から土器や石器が拾い上げられたことが契機となりました。1985年からは、国道13号建設工事を起因として3カ年におよぶ発掘調査が行われ、大きな成果が得られています。地下2m下に、特殊な構造をもつ住居群、通常の遺跡では残りにくい有機質遺物、彩漆土器や木胎漆器などを始めとする貴重な遺構・遺物の数々が発見されました。その重要性は、約1,100点の出土品が国指定重要文化財となったことからもうかがえます。

今回の第4次調査では、住居跡4棟や多数の遺物が見つかりました。住居跡は前回の調査でも見つかった盛土をもつものです。その中でも2棟の住居跡には、床面とした盛土の下に転ばし根太とよばれる丸太材が縦横に敷き詰められていました。柔らかい地盤に住居を建てるための工夫であると考えられます（右写真）。盛土には、砂や粘土が交互に積み重ねられていました（下写真）。また、盛土の周囲には壁柱と考えられる多数の柱が打ち込まれています。

土器の大半は、東北地方南部の土器型式である、粘土紐を貼り付けた曲線的紋様が特徴の大木4式期のものですが、一部他地域（新潟方面など）の土器型式も出土しており、人・モノの交流がうかがえます。また、湿地に多いヨシを刈るための石器も出土しました。湿地に適応した住居や石器などを用いています。その暮

らしぶりは、湿地を選んで住んだのか、あるいはほかに住む場所がなかったのかで大きく変わります。見つかった多種多様な遺物からは、積極的に湿地へと進出していった可能性も十分に考えられるのではないのでしょうか。

（水戸部秀樹）



住居跡の床下に敷いた丸太材と壁柱である打ち込まれた木材が見つかりました。



住居跡の断面です。丸太材を敷いた上に、砂や粘土を何層も積み重ねた盛土の様子がわかります。

山形城三の丸跡は、霞城公園のある山形城跡（本丸・二の丸、国指定史跡）を取り囲む東西約1,600m、南北約1,800mの城館跡です。文禄・慶長年間（1592～1615年）に最上義光が三重の堀を構えた城郭として整備したといわれています。

三の丸には11か所の出入り口が設けられたとされており、西側の飯塚口付近では平成20・21年度に県道拡幅工事に伴う発掘調査が行われました（第5・7次調査）。23年度の第8次調査は、これに継続するものです。

今回の調査区西端では、第5次調査で確認された三の丸堀跡の続きが検出されました。堀跡の縁は東側のみ確認し、検出面からの深さは最深部で約90cmになります。また堀跡の特徴として縁が直線的でない点や、底の深さが一定でないことなどが明らかになりました。こうした特徴は今回の調査区が、三の丸の出入り口付近に位置することと関係があるのかもしれませんが。

このほか江戸時代の遺構と考えられるものには柱穴や土坑があり、とくに土坑からは上面に鉄絵を描いた美濃産の折縁皿が出土しました。

さらに断面がV字形をした深さ1 mほどの溝



調査区壁面を見ると、三の丸堀跡の東縁が緩やかに立ち上がっていますが、写真右側の断面部分を観察すると、手前に向かって高くなっています。

跡が複数見つかりました。溝の形態としては古い特徴とも見られますが、最下層にガラス片などの新しい遺物が含まれていたため、近代以降に用水路として利用されたものと考えられます。

調査を行った春日町周辺は、江戸時代後期には城の荒廃が進んで田畑になっていたといわれますが、今回の調査で山形城三の丸西部の状況がより明確になったと言えます。

（草野潤平）



柱根の残っていた柱穴です。遺物は出土しませんでしたでしたが、柱材の放射性炭素年代を測定したところ、江戸時代中期以降という結果が出ました。



土坑から出土した折縁鉄絵皿です。器の特徴から最上家改易後の寛永年間に作られたものと考えられます。上面には漆が付着していました。

山形城三の丸跡の第9次調査は、三の丸跡北側^{さかな}の肴町口^{れんめん}に続く街道沿いを行いました。

遺構が確認出来る土の面からは古墳時代から近世・現代まで各時代の遺構が検出され、人々がこの地に連綿^{れんめん}と暮らして来たことが分かりました。なお、出土した遺物の多くが中世や近世の遺物であり、遺構についても同様のことがいえます。

遺構の分布として注目されるのは、南北方向に走る2条の溝跡に挟まれた所で多くの柱穴や土坑が検出されたことです。この溝が区画施設となっており、その中に建物を配置していたと考えられます。

規模の大きい柱穴の中には底部に礎石^{そせき}を据えたものがありました。建物が沈みこまないように工夫したものと考えられます。土坑では焼土や炭化物を多く含むものが見つかりました。火災後に燃えたものを一括^{いっかつはいき}廃棄した可能性が高いといえます。その他に井戸も検出され、上部に石が組んでありました。井戸周辺の土が砂質であるため崩落^{ほうらく}を防止するために設置したと考えられます。

本調査区は、三の丸の出入り口である肴町口^{れんめん}に続く街道に面した場所ということもあり、有力な家臣が住んでいたと考えられます。



多くの遺構が確認された調査区。古墳時代から現代までの生活の痕跡が残されていました。

遺物^{とうき}は陶器・磁器^{じき}の出土が多く、一部は最上氏が統治していた時代までさかのぼります。今の愛知県や九州の佐賀県や長崎県で焼かれた陶器も出土しており、当時の交易の範囲をうかがえる資料といえます。その他に瓦や馬の歯骨^{しこつ}、時代はさかのぼりますが須恵器^{すえき}や土師器^{はじき}といった古代に属する遺物も出土しています。
(渡辺和行)



直径が1 m程ある柱穴です。
底部に礎石をおいて柱の土台としています。



石組み遺構から近世の陶磁器などが出土しました。遺構が埋まった年代の手がかりとなります。

沼袋遺跡は東根市長瀬地区から北西に約1.3km、最上川右岸の自然堤防上に立地しています。最上川の旧河道にあたる周囲の低地部を挟んで北側には八反遺跡、南側には中世の方形居館である長瀬本楯跡があります。

調査区の3分の1は河川に削られていましたが、流路に沿った微高地で竪穴住居や掘立柱建物からなる古代の集落と、区画溝や掘立柱建物・井戸で構成される中世の屋敷地が見つかりました。

竪穴住居跡は11棟見つかりました。出土した土器の特徴から、奈良時代と平安時代の2時期に分かれます。大きさは2～6m四方で、深さは検出面から5cm程の浅いものから80cmを越えるものまであります。カマドの多くは南向きですが、6m四方の大型住居では南と東の2か所にカマドが作られていました。

掘立柱建物跡は多数の柱穴が密集して見つかることから、複数の建物が復元できるものと考えています。

溝跡では深さが1m以上ある断面V字形の薬研堀や、幅6m深さ1.7mもある大きな濠があります。いずれも屋敷地を区画したものと考えられます。区画溝からは十字文がある壺（須恵器系陶器）雷文がスタンプされた茶道具の



調査区の遠景です。奥（南側）に見える林は中世の方形居館・長瀬本楯跡です。

風炉（瓦質土器）など中世の遺物が出土しました。「風炉」は県内では城館や寺院で確認されていますが、集落からの出土は珍しい事例といえます。

河川は大小3条が見つかりましたが、出土遺物の特徴から見て古代、中世、中世以降と大きく3時期に渡る移り変わりがあったと考えられます。

（菊池玄輝）



4m四方の竪穴住居跡です。西側に設けられたカマドのまわりから土師器や須恵器など多くの遺物が出土しました。



幅6m、深さ1.7mの濠跡の断面です。濠の外側（写真左側）に盛られていたと考えられる土塁の土で半ばまで埋め戻されています。

八反遺跡は最上川右岸の自然堤防上に位置しています。周辺には果樹園や畑が広がります。遺跡南側には古い川の跡があり、川跡を挟んで南側には沼袋遺跡が位置しています。地元の方の話によると、遺跡の周辺には8つの壇^{だん}があったとされ、「八反^{はったん}」の地名の由来となっています。

調査の結果、火葬遺構や集石遺構など葬送に関連する遺構が見つかりました。

火葬遺構は、幅40～60cm、長さ100～120cm程の長方形で、長辺の両側に溝が直交します。壁面が火を受け赤く焼けており、底面には炭が堆積していました。炭の上から火葬された人骨が出土しています。

SK587火葬遺構(写真左下)からは、火葬された時の姿勢がわかるほど人骨がまとまって出土しています。頭を北にして足を折り曲げ、西側を向いて火葬されたことがわかりました。

集石遺構は調査区の北東部で多く見つかります。土坑や溝など様々な形の遺構に数cm大の石が集められています。

SK599 集石遺構(写真右下)は長軸2.8m、短軸1.8mの範囲に石が集められていました。ここから古銭が6枚まとまって出土しました。死者に供えた六道銭^{ろくどうせん}と考えられます。

その他、焼けた土や炭、人骨が出土する遺構



調査区を上空から撮影した様子です。写真奥には現在の長瀬集落が見えます。

が数多く見つかっています。また、古瀬戸^{こせと}や青磁^{せいじ}等の遺物が出土しました。

今回の調査によって、八反遺跡は亡くなった人を火葬し、埋葬した葬送の場であったことがわかりました。時代は出土した遺物等から中世後半頃と考えられます。

遺跡の南側にある居館の長瀬本楯を中心とし、その北側に屋敷地(沼袋遺跡)と墓地(八反遺跡)が広がる最上川右岸の中世の景観が見えてきました。

(高桑登)



中央に白く見えるのが人骨です。北側(写真右下)に頭骨、南側に足の骨がまとまっています。



古銭は6枚が重なっています。銭名はわかりませんが、中国から輸入された銭と考えられます。

清水遺跡 1 地区 第2次

ポイント
発掘された
古代の開拓村

村山市

清水遺跡は、村山市のほぼ中央に位置し、最上川右岸の丘陵地に立地する大きな遺跡です。範囲が広いため、1地区から4地区までの4つの地域に分けて23年度は調査を実地しました。1地区はその南側の地点にあたります。22年度の調査で南半分を、今年度は北半分を中心に発掘調査を実施しました。

遺跡は平安時代初頭の集落跡であり、丘陵裾部から3棟の竪穴住居跡を検出しました。これらの住居から出土した遺物をみると、9世紀の中頃から後半にかけて営まれた集落であったと判断できます。遺物の検討はこれからの整理作業によって明らかになりますが、現段階では、この時期より古いものも新しいものも見つかっていません。

また、検出した住居のひとつ、ST1154竪穴住居跡は915年に噴火した十和田火山の火山灰によって埋没していました。住居内が火山灰で埋まるということは、915年当時、すでに屋根などはなく、住居としての機能を終えていたことがわかります。さらに検出した住居は、すべて南側の壁面にカマドをつくり付ける構造になっており、住居配列の企画性をうかがわせます。これらのことは、22年度の調査で検出された5棟の住居跡でも同様のことがいえます。



調査区全景。高速道路の工事範囲に沿って細長い調査区が南北に続いています。

よって本遺跡は、先祖代々続いたような集落ではなく、一定の集団が開拓などの理由で比較的短期間でつくりあげ、短期間のうちに離れた集落跡と考えられます。

9世紀の東北は地震や噴火などの災害や、中央権力への反乱などが相次ぎました。同時に各地からの移民と開拓が盛んに行われた時代でもあります。本遺跡はそのような社会情勢を物語る遺跡といえます。

(天本昌希)



ST1154住居跡の調査風景。埋没状況を確認するために十字形に掘り残した部分に厚く堆積している白色の土が915年の十和田火山灰です。



住居跡のカマドからは、たくさんの土器が出土しました。ロクロで大量につくられる器は、時代を判断する目安になります。

清水遺跡 2地区 第2次

ポイント
傾斜地に形成された
集落跡

村山市

2地区の23年度調査では、平安時代の竪穴住居跡6棟、掘立柱建物跡4棟を検出しました。

ST9竪穴住居跡は、何らかの火災で焼けた焼失住居で、炭化した家屋の骨組木材や屋根材を確認できました。カマドの脇からは、糸をよりあわせて巻きとる鉄製の紡錘車ぼうすいしゃが出土しています。さらに、床面を掘下げるとこれより一回り小さな、竪穴住居跡が見つかりました。同地で建て替えを行ったことが分かりました。

隣接するST10竪穴住居跡の床面からも鉄製の紡錘車ぼうすいしゃが出土しました。また、ST141・ST276竪穴住居跡は傾斜地を造成し、平らにした所に建てられていることが分かりました。

4棟ある掘立柱建物跡は、軸方向が二方向あり、時期差があると考えられます。

丘陵の谷筋から沢状の河川跡が検出され、多くの遺物が出土しました。土器には文字「太」「寺カ」を書いた墨書土器ぼくしよも確認できました。木製品には食器の破片や建材の一部、端材はざいなどがあります。

河川跡や竪穴住居跡の埋土には、火山灰が厚く堆積したのが見られます。これらは915年に^は出羽国に降ったと記録がある、十和田火山由来の火山灰と考えられます。このことから、



調査区全景。
正面の丘陵の裾野に集落が広がっていました。

検出された多くの遺構は10世紀初頭にはすでに廃絶していたとみられます。このことは、9世紀が中心とみられる出土した遺物の年代ともほぼ合致すると考えられます。

(齋藤健)



ST10竪穴住居跡です。南壁西(右奥)にカマドが設けられ、床面から鉄製の紡錘車ぼうすいしゃが出土しました。



S B 347 掘立柱建物跡です。2間×3軒の規模で、柱の掘りかたが深く大きいのが特徴です。

清水遺跡 3 地区

ポイント
最上川沿岸の
官衙関連遺跡

村 山 市

3 地区は市道清水北線の北側に所在し、東側を県道村山大石田線が走ります。調査では、縄文時代と平安時代の生活の痕跡がみつかりました。縄文時代は^{おとしあな}陥穴が1基と、石器の集中した土坑が確認されました。平安時代の遺構では、大型の掘立柱建物跡、竪穴住居跡、溝跡、井戸跡、土坑などが確認されました。

掘立柱建物跡は、調査区中央の西側に重複を含め9棟が集中しています。この集中区域の建物跡は、規模は大きいもので3間×3間ですが、柱穴の掘り方が大きいことが特徴です。中には1mを超える掘り方の建物もあります。その建物群の規模から倉庫跡と考えられます。

竪穴住居跡は、約3～4m四方の大きさで、深さは確認面から浅いもので15cm、深いものでは40cmを測ります。なかにはカマドの付け変えも見られました。住居跡や直径約2mの土坑から、土師器や須恵器の蓋、^{はじき}甕、^{すえき}須恵器の^{ふた}蓋、^{つき}坏、^{こうだいつきつき}高台付坏、^{かめ}甕などが出土しています。

井戸跡は直径1mの隅丸方形で深さは1.5mを測り、底から漆器の椀や当時としては大変貴重な陶磁器の小破片が出土しています。土器の形や技法などの特徴からみるに9世紀を中心とした集落跡と思われます。



調査区全景。手前には最近行った抜根の跡(攪乱)がたくさん確認できます。

そして、大半の遺構が調査区内で屈曲する区画溝に囲まれ、建物が南北向きの同一軸であることから、官衙に関する遺跡の可能性がうかがわれます。

調査で確認された遺構の広がりから、集落の範囲は西側に延びると推測されます。今後、見つけた遺構や遺物を詳細に検討し、集落の変遷を明らかにしたいと思います。

(氏家信行)



調査区の中央西側の掘立柱建物跡群です。この場所だけで、9棟の建物跡が確認されました。柱の掘りかたが深く大きいのが特徴です。



土坑の遺物出土状況です。須恵器や土師器の坏や高台付坏とともに、大型の甕の破片が含まれています。

清水遺跡 4 地区

ポイント
斜面に築かれた炭窯跡

村山市

4地区は、最も北側に位置しています。調査区南側では倒木痕や溝跡が複数見つっています。遺物は土師器の破片と石器が出土しました。石器は頁岩製で片側に刃部を持つナイフ形石器です。東側斜面では、炭窯跡が見つっています。窯の焚口部分の平坦部からは、窯から掻きだした炭化物や焼けた石が見つかりました。さらに窯の内部では、壁面の一部が赤く焼けて

いる状態が確認されました。この炭窯跡は、残存している形状や堆積状況から、近現代に作られた炭窯と考えられます。

現在、炭窯跡がある山地には杉が植林されていますが、植林以前は窯を築き、生活に必要な炭の生産を行っていたことが分かりました。

(渡部裕司)



斜面に築かれた炭窯跡です。



片側に刃部を持つナイフ形石器です。

北原2遺跡 第2次

ポイント
縄文晩期集落の縁辺か

村山市

北原2遺跡は山形盆地と尾花沢盆地との境に広がる丘陵に位置し、最上川の支流沢の目川が西側を流れています。23年度遺跡範囲の南部を調査の対象としました。

調査区中央から北西側では、溝状の遺構や倒木痕が複数検出され、それらの堆積土から縄文土器や石器が出土しました。特にSD53溝状遺構では深鉢の土器破片がまとまって出土し、

SX51遺構では浅鉢が倒立した状態で出土しました。

出土品から、縄文時代晩期頃の遺跡であることが分かりました。建物や貯蔵穴などの明確な遺構はありませんが、土器の出土状況などから、調査区のさらに西側に集落が広がっていた可能性は十分に考えられます。

(濱松優介)



遺構完掘全景写真(南から)



S X 51遺構土器出土状況

森の原遺跡 第2次

ポイント 河間低地の縄文の集落

村山市

調査は22年度調査区の内側で、高速道路の本線部分を対象に実施しました。

検出された遺構は、性格不明の大きな土坑4基、竪穴住居跡1棟、柱穴など合せて290基ほどが南側のやや標高の高い部分から見つっています。中央部では、砂が帯状に走るのが確認されました。断面はあたかも湧き上がったようにも見え、噴砂や液状化現象も含め、今後、詳細な検討が必要です。

遺物は須恵器や土師器は少量で、ほとんどが縄文土器でした。土器表面の紋様などを確認できるものは少数に留まりましたが、時期的にやや古い印象があります。石鏃も数点出土していますが、約3cm×4cm、厚さ約2mmの薄い板状の石に約2mmの穿孔をした装飾品と考えられる石製品やその未製品もあります。遺跡は集落の縁辺にあたり、西側に広がると考えられます。

(高橋敏)



森の原遺跡全景空中写真



森の原遺跡出土 石鏃・石匙・石製品・石剣

田向遺跡 第2次

ポイント 田向遺跡の北限域？

村山市

田向遺跡は、22年度に遺跡範囲の南側（A区）と北側のB区で調査を行い、溝跡、土坑、柱穴など約300基あまりの遺構と、少量の土師器、須恵器、陶磁器片を発見しました。23年度は、B区北辺の隣接地について調査を行いました。調査区の中央と南側、東側では、3基の倒木痕を確認しました。倒木痕の存在は、現在の畑地に造成される以前に、ここに樹木があったことを示しています。

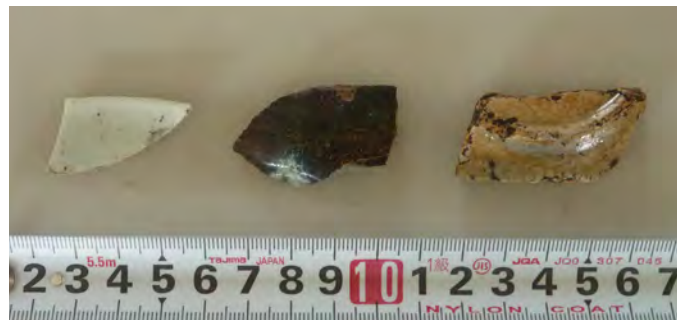
南側の倒木痕の堆積土からは、近世末期頃と思われる磁器片が出土したことから、樹木が倒れたのは近世末期頃にさかのぼる可能性があります。遺構の主な広がりには22年度のB区までであったことが判りました。

調査区からは同時期と思われる陶磁器片が6点出土しており、近世末期に調査区周辺でヒトの何らかの営みがあったと思われます。

(大場正善)



調査区全景（南西から）



出土した陶磁器片

今宿大谷地遺跡

ポイント
縄文時代中期の集落跡

大石田町

今宿大谷地遺跡は大石田町と尾花沢市の境界付近に位置する、小さな丘の裾に確認された縄文時代の遺跡です。

現地は5段の段丘状になっていましたが、表土を取り去ったところ、段々は近現代の盛り土によるものとわかり、当時は緩やかな斜面状になっていたことがわかりました。

柱穴などは検出できましたが、住居跡等は明確に確認できていません。遺物は、縄文時代中期はじめの大木7式期の土器片が多数出土しています。遺構からの出土が少ないことから、遺跡の近くに集落の中心があり、そこから流れ込んだと考えられます。

(向田明夫)



山頂にかけての段丘の様子（南から）



調査区全景（東から）

出張坂城跡

ポイント
武藤氏の居城跡

鶴岡市

出張坂城は16世紀に武藤氏の居城となり、最上氏との戦いでは尾浦城（鶴岡市大山）とともに、最後の砦となったことは有名です。過去に国道7号や鶴岡鉄工団地の造成により大幅な削平を受け、主曲輪の大部分が消滅しました。23年度の調査は西側に残った箇所のうち、国道7号拡張工事で削平を受ける部分の4カ所ある曲輪を中心に調査を行いました。一番上段

の曲輪からは、集石遺構、溝跡と3間×2間の掘立柱建物跡が1棟見つかりました。溝跡の赤茶色に焼けた土の中からは、石や鉄製品、炭などが多量に出土しました。年代測定を行ったところ、成立時期は江戸時代後半頃になるようです。掘立柱建物を構成する柱穴の1つから中世の青磁が出土しており、この建物は中世に成立していた可能性があります。（福岡和彦）



4カ所ある曲輪の内、一番上の曲輪（平場）から検出した集石遺構です。



溝跡の焼けた土の中から石や鉄製品、炭などが大量に出土しました。

木の下館跡は、平成8年度に新規登録された遺跡で、「山形県中世城館遺跡調査報告書 第3集（庄内・最上地域）」に記載された、築城者は不明ながら、戦国期に築城された城館跡です。これまで平成16～18年度にかけて第1～3次の発掘調査が行われました。その結果、城の主郭に通じる古道跡や馬の骨、竪穴住居跡・炭窯跡などが見つかっています。

23年度の第4次調査は、第3次調査区の東側に隣接する部分について行いました。城館を取り巻くように、山の形を利用し、斜面を削って形成された7段の曲輪を、非常に良好な状態で検出することができました。防護柵のような施設は検出されませんでした。敵の進入を防ぐためか、あるいは物見台的な役割を担った場所ではないかと考えられます。

ほかの遺構では、溝跡や土坑、柱穴などを検出しました。また、上から1段目の曲輪下の斜面から、焼土を検出しましたが、これがどのようにしてできたものなのかについては現在調査中です。

遺構に伴う遺物は、中世から近世にかけての



今回調査を行った木の下館跡第4次調査区の全景写真です。遠くからでも曲輪の様子がはっきりとわかります。

がしつ とうじき せんか
瓦質土器片や陶磁器片、銭貨などがごく少量出土しました。

（福岡和彦）



上から1段目の曲輪下の斜面から焼土を検出しました。



山の斜面に築かれた7段の曲輪を検出した様子です。

山形の遺跡と日本・世界の歴史

年代	時代	●:23年度発掘調査遺跡	県内の主な遺跡	山形県の歴史	日本の歴史	世界の歴史	
BC30000年	旧石器時代		上屋地（飯豊町） 越中山（鶴岡市） 小国東山（小国町） 弓張平B（西川町）	お仲間林（西川町） 金谷原（寒河江市） 角仁山（大石田町）	山形県に人が住みつき、県内で産出する良質な頁岩で作られたナイフを使う	日本列島に人が住みつき石器を使って狩猟などをして生活する	原人 旧人 新人
BC11000年	縄文時代	草創期	日向洞窟（高島町） 火箱岩洞窟（高島町） 大立洞窟（高島町）		隆起線文土器を使う人が日向洞窟などで生活を始める	弓矢がつかわれたです 土器づくりがはじまる	
早期		にひやく寺（山形市） 北原4（村山市）	いるかい（尾花沢市） 坂ノ上（山形市）	堅穴住居による小集落が形成される	縄文海進が進む 漁撈活動が盛んになる	農耕牧畜が起こる	
		前期	高瀬山（寒河江市） ●押出（高島町）	小林A（東根市） 吹浦（遊佐町）	漆を使って文様を描いた土器がつけられる	落葉広葉樹林が広がる 磨石・石皿・凹石が多くなる	
中期		西ノ前（舟形町） 小反（鮭川村） 空沢（長井市） 小平4（酒田市） 高瀬山（寒河江市） ●今宿大谷地（大石田町）	中川原C（新庄市） 西海湖（村山市） 西向（鶴岡市） 野新田（鶴岡市） 熊ノ前（山形市） 山居（西川町）	計画的な大集落があらわれる	三内丸山遺跡が繁栄する	エーゲ文明始まる	
		後期	●北原2（村山市） 高瀬山（寒河江市） 川口（村山市）	小山崎（遊佐町） かつぼ（最上町） 砂子田（天童市）	堅穴住居に複式炉が作られる 集落が減少する	関東地方に貝塚があらわれる 配石遺構がさかんに作られる	ピラミッドが作られる
晩期		宮の前（村山市） 作野（村山市） 沼田2（村山市）	下叶水（小国町） 釜淵C（真室川町） 北柳1（山形市）	中国製青銅刀がもたらされる	亀ヶ岡文化が栄える 九州で米づくりはじまる	殷王朝がおこる	
				鳥海山が噴火する（前4466年）		孔子生誕	
AD1年 300年	弥生時代	北柳1・2（山形市） 百刈田（南陽市）	生石2（酒田市） 庚壇（南陽市）	米づくりがはじまる 機械がはじまる	吉野ヶ里遺跡が繁栄する 邪馬台国が出現（230年頃） 前方後円墳がつくられる 大和の土師器が全国に広まる	アレクサンダー大王が生誕 ゲルマン民族大移動	
	古墳時代	畑田（鶴岡市） 王作2（鶴岡市） 鎌倉上（米沢市） 馳上（米沢市） 今塚（山形市） 馬洗場B（山形市） 板橋2（天童市） 西沼田（天童市） 矢馳A（鶴岡市） 物見台（中山町） 南原（高島町） 廻り屋（白鷹町）	比丘尼平（米沢市） 天神森古墳（川西町） 稲荷森古墳（南陽市） 寶領塚古墳（米沢市） 菅沢古墳（山形市） 大之越古墳（山形市） お花山古墳群（山形市） 服部・藤治屋敷（山形市） 梅ノ木（山形市） 太夫小屋2・3（川西町） 百刈田（南陽市） 中里（米沢市）	鉄製農具がつかわれたです 県内最大の前方後円墳がつけられる 東北最大の円墳がつけられる 小規模な古墳群がつけられる 大規模な集落があらわれる	須恵器がつけられたです	隋王朝がおこる マホメット生誕	
600年 700年 800年 馳上	飛鳥時代	北目古墳（高島町） 安久津古墳群（高島町）	羽山古墳（高島町） 長手古墳（米沢市）	出羽郡が建郡される（708年） 出羽柵が設けられる（709年）	聖徳太子摂政となる（593年） 十七条憲法を制定（604年） 平城京に都をうつす（710年） 東大寺の大仏開眼（752年） 長岡京に都をうつす（784年） 平安京に都をうつす（794年） 坂上田村麻呂が蝦夷を平定 続日本紀ができる（797年） 胆沢城をつくる（802年）	唐王朝がおこる 李白・杜甫らが活躍	
	奈良時代	二色根古墳（南陽市） 不動木（河北町） 一ノ坪（山形市）	牛森古墳（米沢市） 木和田窯（米沢市） 西町田下（米沢市）	出羽国が建国される（712年） 出羽柵が秋田村清水水岡に移転する（733年）			
	平安時代	●北原2（村山市） ●清水（村山市） ●田向（村山市） ●森の原（村山市） ●八反（東根市） ●沼袋（東根市） 西谷地b（米沢市） 経塚森（村山市） 松橋（村山市） 沼田2（村山市） 東熊野苗畑（村山市） 南口A（庄内町） 山田（鶴岡市） 川前2（山形市・中山町） 小松原窯（山形市）	城輪柵（酒田市） 俵田（酒田市） 八森（酒田市） 泉森窯（酒田市） 山海岸跡群（酒田市） 大坪（遊佐町） 下長橋（遊佐町） 王作2（鶴岡市） 的場（天童市） 蔵増押切（天童市） 堀端・畑ノ上（長井市） 四ツ塚（河北町） 三條（寒河江市） 落衣長者屋敷（寒河江市） 今塚（山形市） 三本木窯（山形市）	大地震がおきる（850年） 鳥海山が噴火する（871年） 最上郡が二分され、最上郡と村山郡となる（886年） 十和田火山の噴火により県内にも火山灰が降る（915年）	将門・純友の乱（935-939年） 藤原氏の全盛（1016年） 前九年合戦はじまる（1051年） 後三年合戦はじまる（1083年） 中尊寺建立（1105年）	カール大帝戴冠 楊貴妃が活躍 アラビアンナイト成立 高麗王朝がおこる 宋王朝がおこる	
1200年		鎌倉時代	升川（遊佐町） 大桶（遊佐町） 志戸田縄（山形市） 執行坂窯（鶴岡市）	長表（山形市） 永源寺（天童市） 七日台（鶴岡市） 蓮華寺（鶴岡市）	鎌倉に幕府をひらく（1192年） 南北朝の動乱（1336年） 室町に幕府をひらく（1338年）	マグナカルタ制定 チンギスハーン征西 ダンテが活躍	
1400年		室町時代	柳沢A（鶴岡市） 藤島城（鶴岡市） 小田島城（東根市） 長岡山（南陽市）	高松Ⅱ（寒河江市） 蔵増押切（天童市） 安中坊（西川町） 館山北館（米沢市）	斯波兼頼が山形へ入部	種子島に鉄砲伝来（1543年） 織田信長安土城築城（1576年）	マゼラン世界一周 ガリオが活躍
1500年			安土桃山代	●出張坂城跡（鶴岡市） ●木の下館跡（鶴岡市） ●山形城三の丸（山形市） ●稲荷山館跡（米沢市）	大宝寺城（鶴岡市） 白鳥館（村山市） 米沢城（米沢市） 亀ヶ崎城（酒田市）	最上義光が最上家第11代当主となる（1570年） 出羽合戦（長谷堂合戦1600年）	豊臣秀吉の天下統一（1590年） 関ヶ原の戦い（1600年）
1600年		江戸時代	新庄城（新庄市） 観音堂（山形市） 双葉町（山形市） 渋江（山形市） 坂ノ上（山形市）	鶴ヶ岡城（鶴岡市） 三條（寒河江市） 南台（長井市） 飛泉寺跡（小国町） 槽岫橋（西川町）	最上氏改易（1622年）	徳川家康江戸に幕府をひらく（1603年）	清王朝がおこる アメリカ独立 フランス革命 リンカーンが活躍